



岩手医科大学医学部
神経精神科学講座

大塚耕太郎 教授

岩手県は自殺死亡率が高いといわれていますが、全国に先駆けて医療・行政・地域が連携し、自殺防止のネットワークを築いてきました。その結果、最も自殺者数が多かった平成15年の527人から平成29年には262人まで減少し、確実に成果が表れています。

こうした仕組みづくりをけん引してきたのが、岩手医科大学の大塚教授です。「自殺は特別な問題と思いがちですが、そうではありません。あなた自身にも家族や友人にも起こり得る、とても身近な問題です。そこで、自殺対策では、ゲートキーパーの活動がとても重要です。身近な人たちのところに寄り添う活動が地域に広がっていくことが大切なのです」と話します。個人でも地域でも、悩みを抱える人を支える環境をつくることで、誰もが生きやすい社会の実現につながっていきます。